

第 1658 回 (11 月 7 日)

東ジャワの穀物流通と商人

(アジア経済研究所) 米 倉 等

「緑の革命」以降アジア諸国では、農業の多様化が、近年では持続可能な農業発展が課題とされている。また経済発展に伴う需要の変化への対応も求められている。商人はこうした農村の変革の担い手として、即ち農産物の処理加工、品質管理、流通機構の改善、新しい農業技術・価格・需要等の情報の提供者として、重要な役割を担っており、今後の期待も大きい。

本報告は、こうした状況を背景にして、東ジャワの穀物商人の活動を金融面に着目しつつ実証的に明らかにするとともに、その問題点の解明を、課題としている。

トウモロコシ等を扱う穀物商人には、流通過程と資金の関係を通じて基本的に三つの階層が存在する。まず農民から穀物を集荷する産地商で、小集荷商や収穫請負人(ブヌバス)をも含んでいる。第2は産地から集散地への流通を担当する産地集散地間商で、仲買商や精米兼集荷商も含まれる。第3は集散地卸売商で、直接あるいは代理店を通して飼料工場と取引を行っている。

穀物取引の方法は、各段階とも一部前払いを含む現金取引が主体であるが、それに必要な運転資金を、国営銀行や、農村協同組合(KUD)、民間銀行等の公的な金融機関から調達することは一部を除き困難である。高い事務経費、担保の提供、コミッションや拘束性預金のコスト負担、高い取引費用が必要であり、規模の経済が作用している。また情報の不完全性や審査能力の不足等の農村金融市場の不完全性ゆえに、貸し手にとってもリスクが大きいことによる。こうして零細な商人に必要な小口の融資の単価が高まり、公的な金融市場から排除されている。

それに代わって零細な商人に運転資金を提

供しているのは、他の商人である。具体的には、大規模な産地卸売商は比較的得やすい国営や民間銀行から融資を受け、集散地卸売商から産地集散地間商へ、さらに産地商へと穀物調達資金が提供される。金利は低利で無利子も多く、期間は短期である。借入に際しては、納入販売が義務付けられるという条件が付されることも多い。

このような関係を通じて、産地商特に収穫請負人は買い付け資金をあらかじめ入手して穀物の買い入れと収穫を行い、産地集散地間商および集散地卸売商は一定の品質の穀物を安定して調達することが可能となる。こうしたクレジットタイの関係は、農村金融市場の諸々の不完全性を背景にした商人間の組織化であり、商人による制度適応でもある。

この商人間の制度適応による組織化には、しかし大きな限界を持つものであろう。即ち取り引きされる資金はいずれも短期であり、長期の運転資金にはなり得ない。だが近年の需要側からの変化、例えば新たな加工・利用の方法とそれに見合った品質の要求等が強まっている。また速やかな収穫後の加工・処理、保管、大量運搬の必要性も強まっている。こうした要請に対応するための長期の投資資金の確保は、現状では困難である。投資活動をサポートする資金がない産地商人にとって、農村金融市場の不完全性の改善は必要である。

(文責・大鎌 邦雄)